



かつて本通りと呼ばれていた中溝の商店街通りは、長い歴史の中で文化、伝統を育み、商業の中心となって活躍していました。しかし平成4年ごろから商店数、従業員数、年間商品販売額、売り場面積のいずれも減少しています。

平成11年に熊野町は、この中溝通りを中心とした区域を、「熊野町中心市街地」と指定し、「活性化基本計画」を定めました。

周辺の都市機能の推進や経済活動の向上を一体的に図るとともに、「熊野町らしさ」の伝承にも十分配慮しながら、地域の活性化を目指して、この度、「中央ふれあい公園」が郷土館横に完成しました。

